

教科等研究会（小学校体育部会）

令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

『児童一人ひとりがかかわり合い、運動の楽しさや喜びを味わう体育学習』

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月7日	35人	白旗小	9月19日	白旗小	豊住和幸	11月15日	小坂小	福田佳尉	1月23日	広安小	古閑千聖

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマ設定の理由

小学校の体育は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指している。この目標を達成するために、知識や技能を身に付けることを中心とした学習だけでなく、仲間と関わり合いながら、児童一人ひとりが運動の楽しさに触れ、生き生きと学習に取り組む体育学習を目指して本研究テーマを設定した。また、児童の実態を把握し、運動が苦手な児童の不安に寄り添いながら、すべての児童が楽しく参加したり、関わり合いを活発にしたりする手立てを中心に研究を進めることにした。

② 研究の実際

ア 研究授業 4年 「白旗オリンピック～一人一人の金メダル 大きく 綺麗に かっこよく」
(器械運動：マット運動)

授業者 豊住 和幸 教諭 (白旗小学校)

本学級は、昨年度に、前転、後転、側方倒立回転、壁倒立を行っており、ほとんどの児童が意欲的に学習に取り組むことができていた。しかし、運動経験の少なさから、マット運動の技の習得に難しさがある児童もいる。また、主体的に学習に取り組む姿が見られる一方で、友達のよい動きを見付けたり、伝えたりすることについては個人差が大きい。そこで、学級目標をキーワードにし、対話や交流の場面を多く設定することで、友達と動きのコツやポイントを教え合う機会を意図的に増やし、「マット運動の技のコツを発見する楽しさやとできる喜びを感じ、進んで運動に取り組むこと」を単元のゴールに設定し、児童に課題意識を持たせ、学習に取り組む必要感を高めるような学習過程の工夫を図りながら学習を進めた。

イ 研究授業 5年 「コツと作戦の宝箱を作ろう」 (ボール運動：ネット型)

授業者 福田 佳尉 教諭 (小坂小学校)

本学級は、体を動かすことに喜びを感じる児童が多い一方で、運動が好きではないと感じている児童も数名いる。普段の授業から主体的な学びが高いとは言えず、協力する場面も少ない。また、自分が失敗することに不安感を持っている児童もいる。そこで、ボール運動の学習を通して、自分の考えが相手に伝わる喜びを実感させる場やお互いが認め合える場、チームに合ったボールを選択したり、ルールを工夫したりすることで、安心して関わり合えるような工夫を意図的に設定し、仲間と関わることの有用感を感じられるような仲間づくりをねらって学習を進めていった。

ウ 研究授業 3年 「みんなで1つに！広安オリンピック」 (器械運動 跳び箱運動)

授業者 古閑 千聖 教諭 (広安小学校)

本学級は、体を動かすことを楽しんでいる児童は多いが、跳び箱運動に対しては苦手意識を持っている児童が数名いる。特に体格の大きい児童が安全面に不安を感じている傾向がある。そこで、児童が安全で易しく、楽しいと思える場の設定を行い、児童が安心して活動に参加したり、楽しんで挑戦したりできる場の工夫を行った。また、グループ活動を通して、仲間と関

わり合う中で、運動の楽しさや喜びを味わいながら、児童が主体的に運動に取り組み、一体感をもって、互いに教え合えるような場面を想定して学習を進めていった。

(2) 成果と課題

① 成果

- 今年度も例年通りの3本の授業研究会を行うことができた。また、長期休業中に2本の事前研を設定したことで、いつもより多くの会員が参加でき、検討する時間の確保もできた。3名の授業者はもちろん、共に授業づくりにかかわった会員にとっても実りあるものとなった。
- 授業研究会においては、各町の地区理事を中心に研究会の運営だけでなく、授業者と一緒に授業づくりを行うことができたので、良かった。

② 課題

- 事前研では、授業づくりを通して、授業者だけでなく、参加者全員が主体となって意見を出し、学び合えるような事前研を検討していく必要がある。
- 授業者の負担を軽減するために、各地区会員の協力体制の構築を事前に検討していくことが必要である。

4 実践事例 「白旗オリンピック〜一人一人の金メダル 大きく きれいに かっこよく」

(器械運動：マット運動)

授業者 豊住 和幸 教諭 (白旗小学校)

(1) 授業の概要

【自評】

- 授業を作るにあたって、児童の実態を一番大切にしてきた。支援学級の児童もスイッチオンタイムまでの参加ではあったが、「みんなが一緒にできる。」を大切に、体育の楽しさを味わってほしいと授業づくりを行った。成果としては、学級目標にしている「かっこよく」を単元のゴールのキーワードとし、子どもたちも意識して学習に取り組むことができた。技を取り組む際には、イメージ言葉を用いることで、全ての児童が意欲的に参加することができていた。学習の最後に、後もう少して技ができそうな児童に対しての指導の仕方について検討していく必要がある。

【質疑応答等】

- Q1：開脚前転をメインにしていく流れだったが、パワーアップタイムの時に開脚前転に取り組む児童が少なかったが、先生は意図されていたのか。
A：毎時間、1つ1つの技について、ポイントを押さえていったが、今回の単元で大切にしたいのは、自分のめあてに対してどのくらいできたかである。パワーアップタイムで開脚前転を行ったり、まとめについて書いたりする児童が少ないことはある程度予想していた。
- Q2：児童は学習カードのまとめにどんなことを書いていたのか。
A：今日の授業の中で伝えた「ひざピン グッ 手前」のイメージ言葉を書いていた。振り返りには、特に自分が頑張ったことを書いていた。

【班別協議】

- ・子どもたち同士がお互いを見てしっかり伝え合っていたと感じた。子どもたち同士で声掛けができるのは、日頃の指導の賜物である。
- ・ICT機器を活用して、後から見るような方法も検討してみてもどうか。
- ・グループごとに同色のビブスを着ることでグループのまとまりが見られたように感じた。
- ・今回のイメージ言葉にプラスして、タイミングも大切だと感じた。一連の動きを言葉の流れで表現することで、よりイメージしやすくなり、できる児童が増えると感じた。

【助言・まとめ】

- 器械運動では、自分に合った技を仲間との関わり合いを通して、「わかる・できる」と実感することが大切である。教師の指導場面では、4分程度の短い時間で行い、どの場面の何を使って子どもたちに気付かせるかを明確にしておくことが大切になってくる。特に、指導場面ではどこに着目させるかという「与える視点」も重要になってくる。児童が主体的に運動するような仕掛けを今後も大切にしながら、明日からの授業に生かしていただきたい。

単元の目標	知識・技能		思考力・判断力・表現力			主体的な学習に取り組む態度		
	マットを使った運動の行い方を知るとともに、回転系や巧技系の基本的な技ができるようにする。		自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。			マットを使った運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。		
時間	1	2	3	4 (本時)	5	6	7	8
10分	・あいさつ ・オリエンテーション (単元のゴールを確認、安全とクラスの約束を確認) ・スイッチオンタイムの行い方を知る 頭倒立 ・	準備・挨拶・準備運動・スイッチオン						
20分		ローテーション活動				チャレンジタイム1 (発表会でする技を練習する)		チャレンジタイム2
30分		課題意識をもち、動きのポイントを見つける 補助倒立ブリッジ 首はね起き 易しい場での開脚前転 開脚後転						
40分		一斉の指導場面 パワーアップ (学習した技を練習・連続して行う)				チャレンジタイム2 (発表会でする技を練習の組み合わせる・つなぎを練習する)		白旗オリピック
・振り返り ・整理運動 ・あいさつ ・後片付け								
準備物	単元計画表 場の図 発見ボード 学習シート BGM (大型TV) タブレット マット 踏み切り板 マット (クッション用) コーン ケンステップ							
直接的指導のポイント【イメージ言葉】	手と頭三角 ゆっくりあげる	体ピン 体そる 背中ささえる	体ノビ 体そる	体クルッ 足ピン・ひざパツ 手でグッと	足ピン 手でグッと			
評価計画	知	⑥	★⑤	★④	★③	★②	①	
	思			①			②	③
	態	④				①		②
単元の観点 (具体の評価規準) ★は記録に残す評価 (行動観察・学習カード・発言)	知識・技能 (具体の評価基準)			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	①自分の力に合った基本的な回転技や倒立技をする。また、技を繰り返したり組み合わせたりする。 ②しゃがんだ姿勢から体を丸めながら尻-背中-後頭部-足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方に回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、両手で押して膝を伸ばしたまま開脚立ちすることができる。(開脚後転) ③傾斜をつかった場で両手を着き、腰を高く上げながら後頭部をつき前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、接地するとともに素早く両手を股の近くに着いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。(易しい場での開脚前転) ④前転を行うように回転し、両肩-背中がマットについたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながらはね起きることができる。(首はね起き) ⑤正面を向き、体を前方へ振り下ろしながら片足を振り上げ、前方に片手ずつ着き、腰を伸ばした姿勢をつくりやすいように支えることができる。(補助倒立ブリッジ) ⑥頭と両手で三角形をつくるように、両手で肩幅くらいに着き、頭を三角形の頂点になるようについて、腰の位置を倒立に近付けるように上げながら両足をゆっくりと上に伸ばし逆さの姿勢になることができる。(頭倒立)			①手の着く位置や着地する位置に目印をおくなどして、技のできばえを視覚的に確認して、自己の適した課題を見付けようとしている。 ②手の着く位置や着地する位置に目印をおくなどして、技のできばえを振り返り、自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選ぼうとしている ③友達の手の着く位置や着地する位置、目線が向く場所に目印などを置いて、動きのできばえを友達に伝えようとしている		①回転したり、支持したり、逆位になったりするなど、マット運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ②機械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときなどのきまりと守り、誰とでも仲良く励まし合おうとしている。 ③互いの動きを見合ったり補助をし合ったりして、技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。 ④場の危険を取り除いたり、器械・器具の安全を確かめたりしようとしている。		

4 本時の学習

(1) 目標 傾斜をつくった場で両手を着き、腰を高く上げながら後頭部をつき前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、接地するとともに素早く両手を股の近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。(易しい場での開脚前転)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
めあてをつかむ	10分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>①場づくり・用具の準備をする。 ◇素早く準備しよう。</p> <p>②準備運動・スイッチオンタイムをする。 ◇今日もがんばるぞ！</p> <p>③学習の進め方とめあてを確認する。 ◇今日は開脚前転をするんだな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】 開脚前転の動きのポイントを見つけて、かっこよく技をきめよう</p> </div> <p>④課題を焦点化し、動きのポイントを予想させる。 ◇開脚前転をするときに、起き上がるのが難しいから、手のつく方に気をつけよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題】 開脚前転はどうしたら、かっこよくできるのだろうか。</p> </div>	<p>○準備の枠割りを分担し、安全に留意させながら場の準備を行う。</p> <p>○BGMを流しながら、全ての児童が安心してできる動きを楽しみながら行うようにする。</p> <p>○学習の流れを確認し、児童が本時の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○開脚前転の難しさを確認して、課題を焦点化する。</p> <p>○ローテーション活動に入る前に児童が考えたポイントを出し合い、ローテーション活動の際に意識してできるようにする。</p>
考える 深める	27分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①ローテーション活動を行いながら、考えたポイントをやってみる。 ◇手は体の近くで着くのかな。 ◇頭の後ろを付けるのいいかな。 ◇足は上で開くといいかな。</p> <p>③課題解決の方法を見つける ◇回転したときに、グッと手で体を押しすといいな。</p> <p>④見つけたポイントをもとに易しい場での開脚前転を練習する。 ◇動きのポイントを意識するとさっきよりできる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【期待される学びの姿】 易しい場で開脚前転のポイントを意識したり友達と確認し合ったりしながら、活動している。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】 開脚前転の動きのポイントは、手をつき、頭の後ろをつけて回転して、膝をピンと伸ばして、グッと手でマットをおすとかっこよくできる。</p> </div> <p>⑤パワーアップタイム 自分で課題を選択して練習する。 ◇まだ、開脚前転を練習しよう。 ◇開脚後転もしてみよう。</p>	<p>○安全面に十分配慮する。</p> <p>○児童の考えた動きのポイントを確認して試すように促す。</p> <p>○個別に動きを見取り、必要に応じて児童の考えを引き出せるように声掛けを行う。</p> <p>○易しい場での開脚前転ができている子を手本として、技のポイントを見つける。また、見つけやすいよう焦点化する。見つけたポイントはイメージ言葉として全体で共有化する。</p> <p>○教師が積極的に共有した技のポイントに関する声掛けや意欲的な態度を認める声掛けをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【具体の評価規準】知③ ○易しい場の開脚前転の動きのポイントを知り、その動きをしようとしている。 (方法：観察、学習カード)</p> </div> <p>【到達していない児童への手立て】 ○友達の動き方を真似しながら、易しい場での開脚前転に挑戦したり、必要に応じて教師や友達が動きの補助を行ったりする。</p> <p>○児童同士がポイントを伝え合いながら、教え合いができるように教師も声掛けをする。</p>
振り返る	8分	<p>3 めあてに対する振り返りをする。</p> <p>①今日の学習を振り返る ◇今日の「キラリさん」は～～君です。動きのポイントを意識していたし、皆にポイントを教えていてすごいと思いました。</p> <p>②場の片づけをする。 ◇グループでマットを運ぼう。</p>	<p>○学習カードをもとに振り返りを行う。</p> <p>○友達のよい動きや、よい言動を認め合えるような言葉かけをする。</p> <p>○友達と協力して安全に片付けるようにする。</p>